

令和3年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	R01	R02	R03
経済学・経済政策	64.6	67.0	61.9
財務・会計	62.5	61.6	62.9
企業経営理論	56.8	62.7	65.0
運営管理	64.3	59.4	61.0
経営法務	54.2	58.5	58.3
経営情報システム	61.8	66.1	52.0
中小企業経営・政策	53.6	64.0	51.5
	59.7	62.8	58.9

■令和3年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	61.9点	14.1
財務・会計	62.9点	14.5
企業経営理論	65.0点	10.6
運営管理	61.0点	10.8
経営法務	58.3点	10.5
経営情報システム	52.0点	12.5
中小企業経営・政策	51.5点	10.6

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	64.0%	7.2%
財務・会計	66.3%	5.8%
企業経営理論	75.3%	1.6%
運営管理	59.6%	3.9%
経営法務	51.7%	3.9%
経営情報システム	26.5%	14.6%
中小企業経営・政策	23.4%	12.5%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	88点	20点
財務・会計	96点	24点
企業経営理論	93点	20点
運営管理	85点	28点
経営法務	88点	32点
経営情報システム	88点	24点
中小企業経営・政策	75点	21点

■令和3年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	69.2点	88点	52点
財務・会計	69.8点	96点	48点
企業経営理論	69.6点	93点	48点
運営管理	66.8点	85点	49点
経営法務	63.0点	88点	44点
経営情報システム	58.2点	88点	40点
中小企業経営・政策	55.9点	75点	43点

注) 当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承ください。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださりまして、誠にありがとうございました。8月27日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和3年度の本試験は全体として例年よりも難度がやや高かったと考えます。

- ① 5点以上平均点が低下した科目
「経済学・経済政策」「経営情報システム」「中小企業経営・中小企業政策」
- ② 5点以上平均点が上昇した科目
なし
- ③ 横ばいの科目
「財務・会計」「企業経営理論」「運営管理」「経営法務」

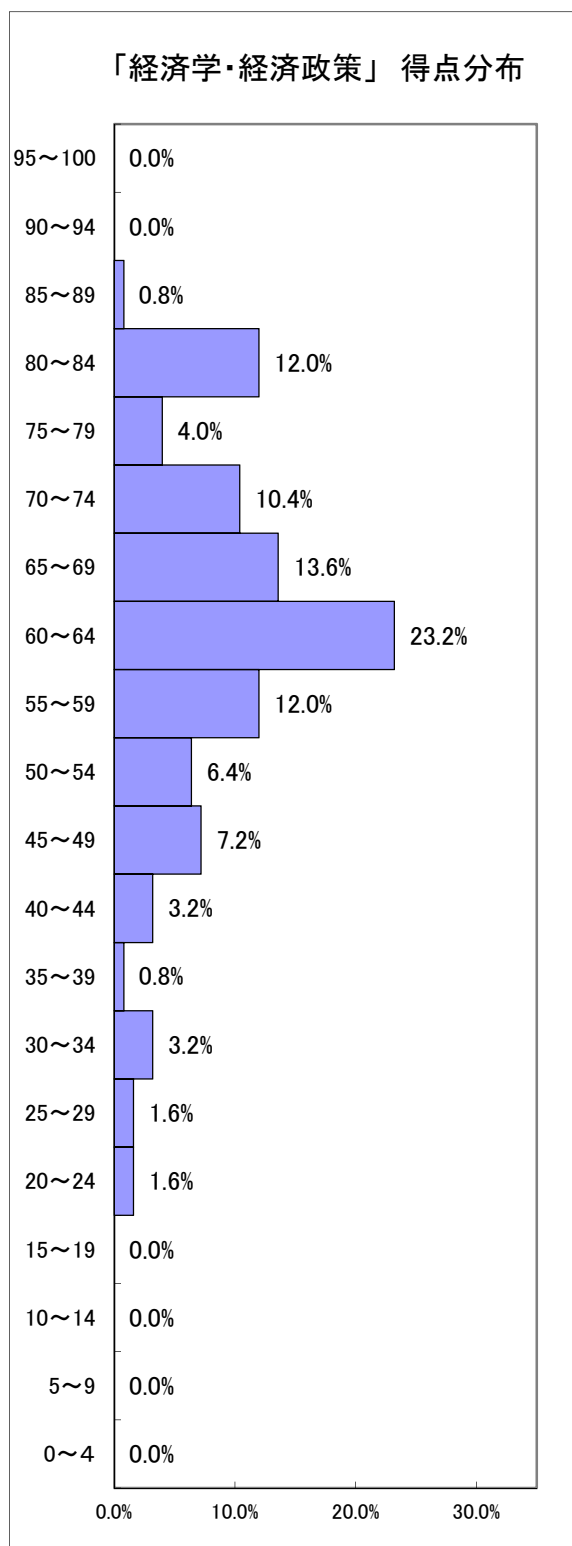
したがって、平均点の高い科目（第1日目の4科目）で、平均点低い科目（第2日目の3科目）の不足分をしっかりとカバーできたかで合否が決まると考えます。

ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

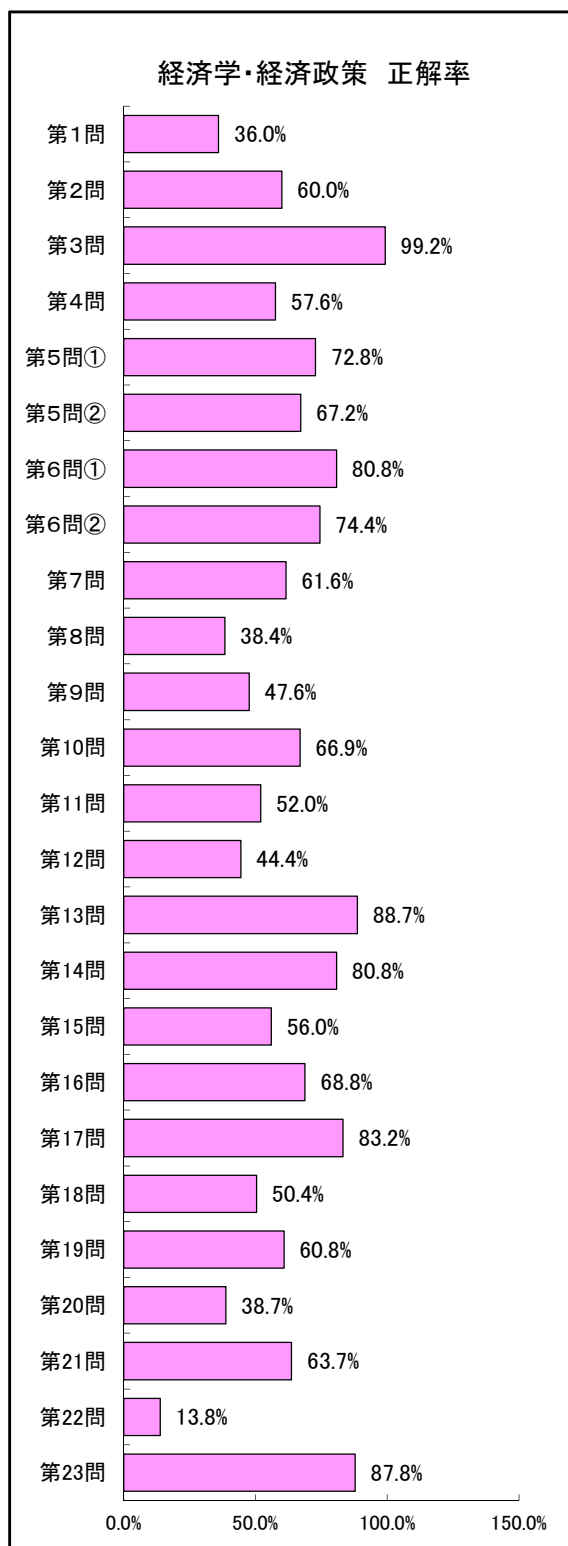
A 経済学・経済政策

平均点：61.9点、標準偏差：14.1

■ 得点分布



■ 設問別正解率



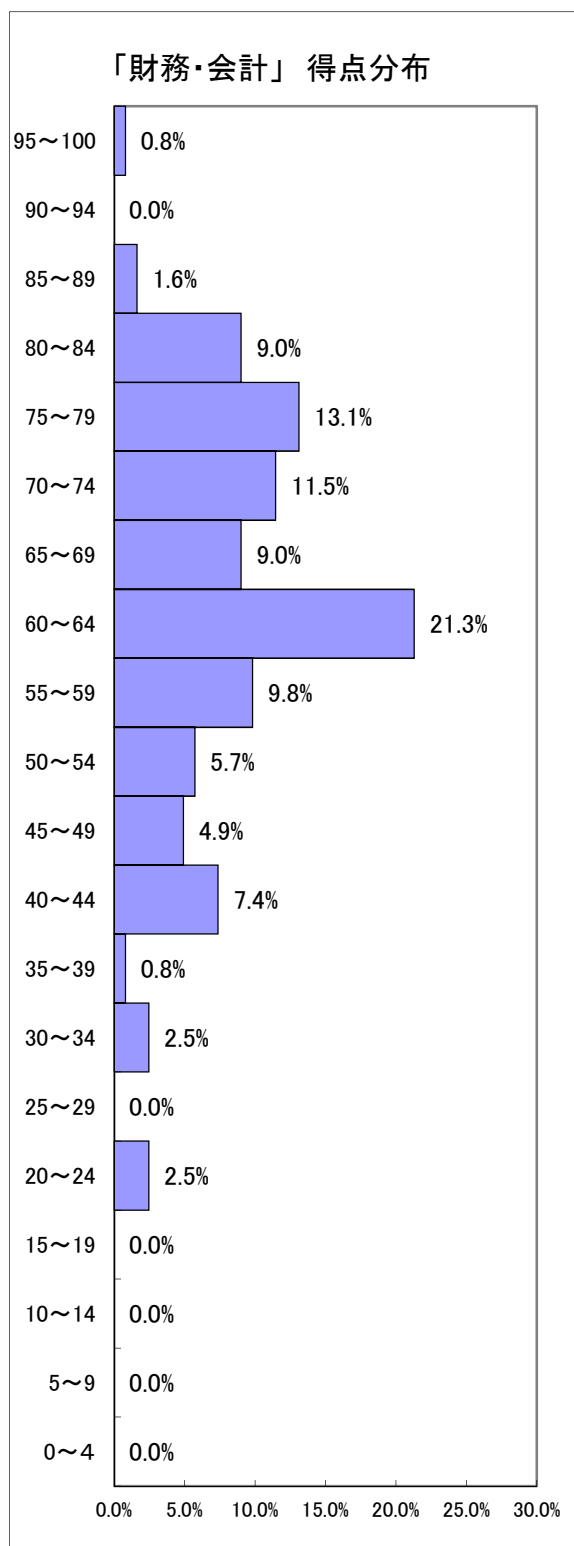
《コメント》

令和3年度の本試験は、過去20年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中1問が5肢択一であったが、今年度は25問中18問が5肢択一であった。さらに、正誤の組み合わせ問題が4問出題されていたことも今年度の特徴である。難易度については、前年度と同様に、基本事項をもとに得点できる問題も多く、全体的な難易度は標準レベルであるといえる。よって、今年の問題は、過去問題を軸に演習をしっかりと取り組まれた方にとっては、合格ラインの60点は確保できたものと思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学14問、ミクロ経済学11問であった。

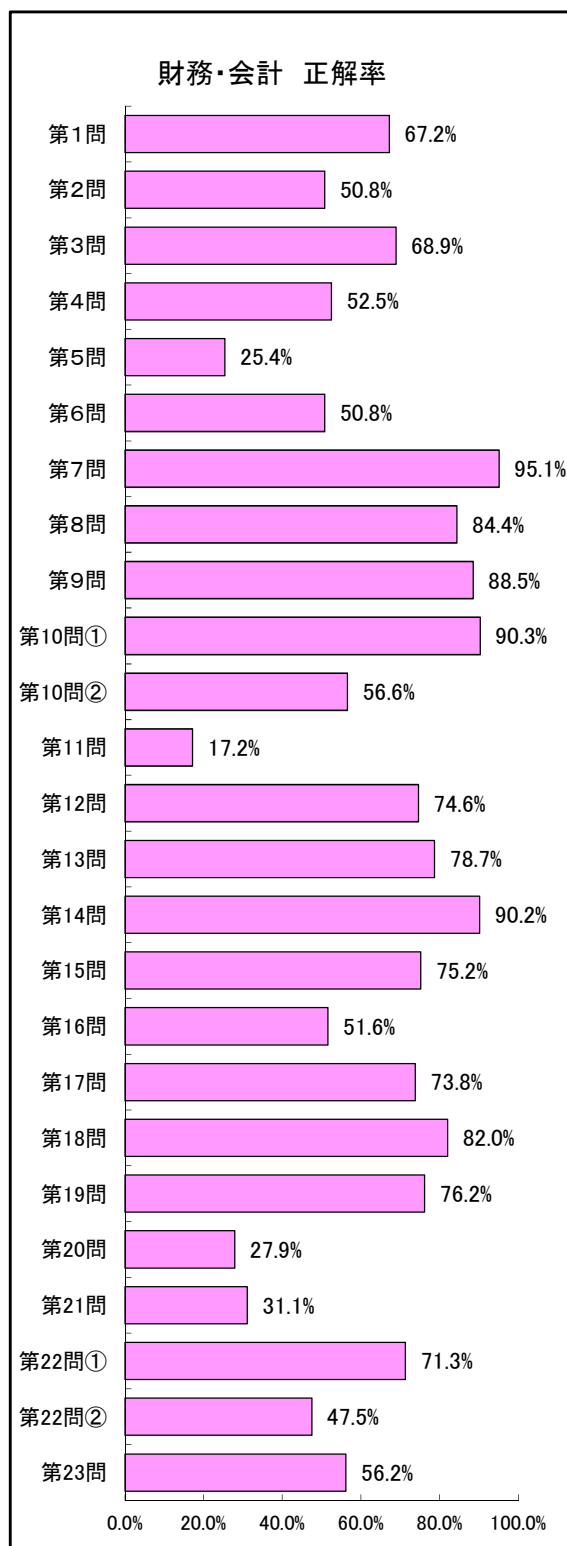
B 財務・会計

平均点：62.9点、標準偏差：14.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

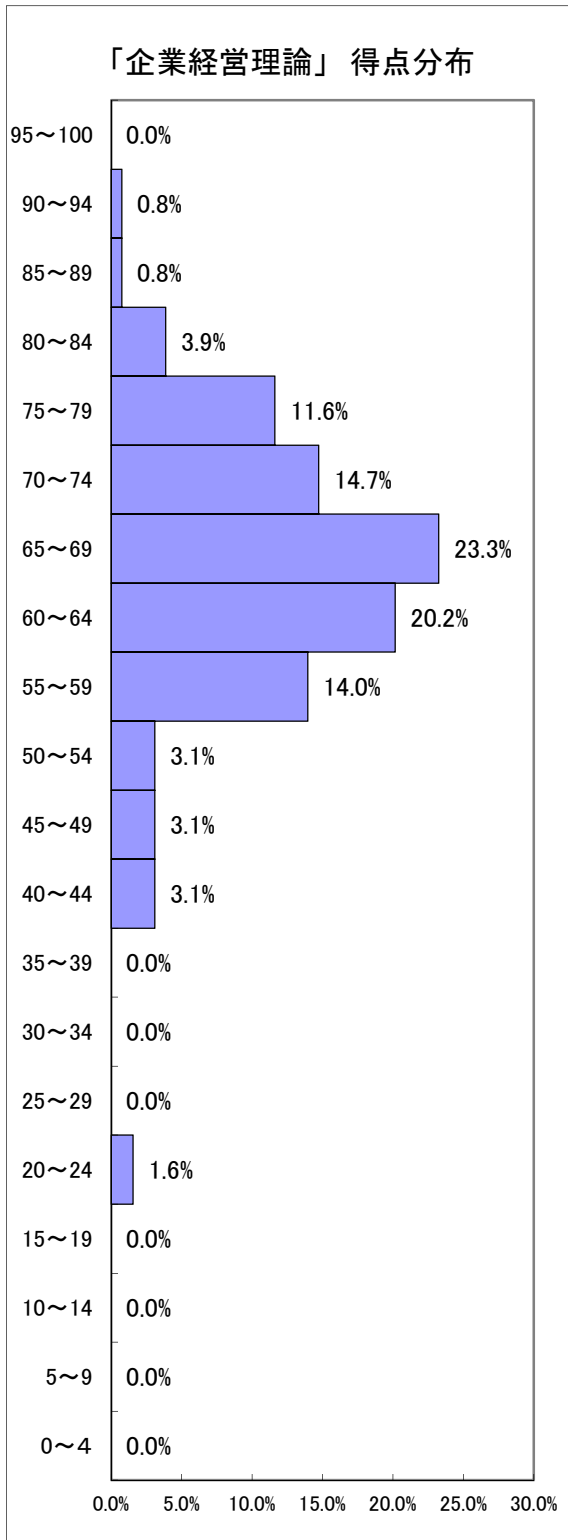
令和3年度の本試験は、問題数は23題（昨年24題）、設問数は25問（昨年25問）であった。昨年に引き続き、5肢択一の問題が1問出題されている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が14問（昨年16問）、財務分野（ファイナンス）が11問（昨年9問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、昨年に引き続き、今年は会計分野の出題割合が高かった。難易度が高い問題も出題されたが、全体的な難易度は標準レベルであったと思われる。したがって、得点すべき基本問題を確実に得点した上で、その他の問題で出来るだけ得点することができれば、合格ラインの60点以上を獲得することができたと思われる。

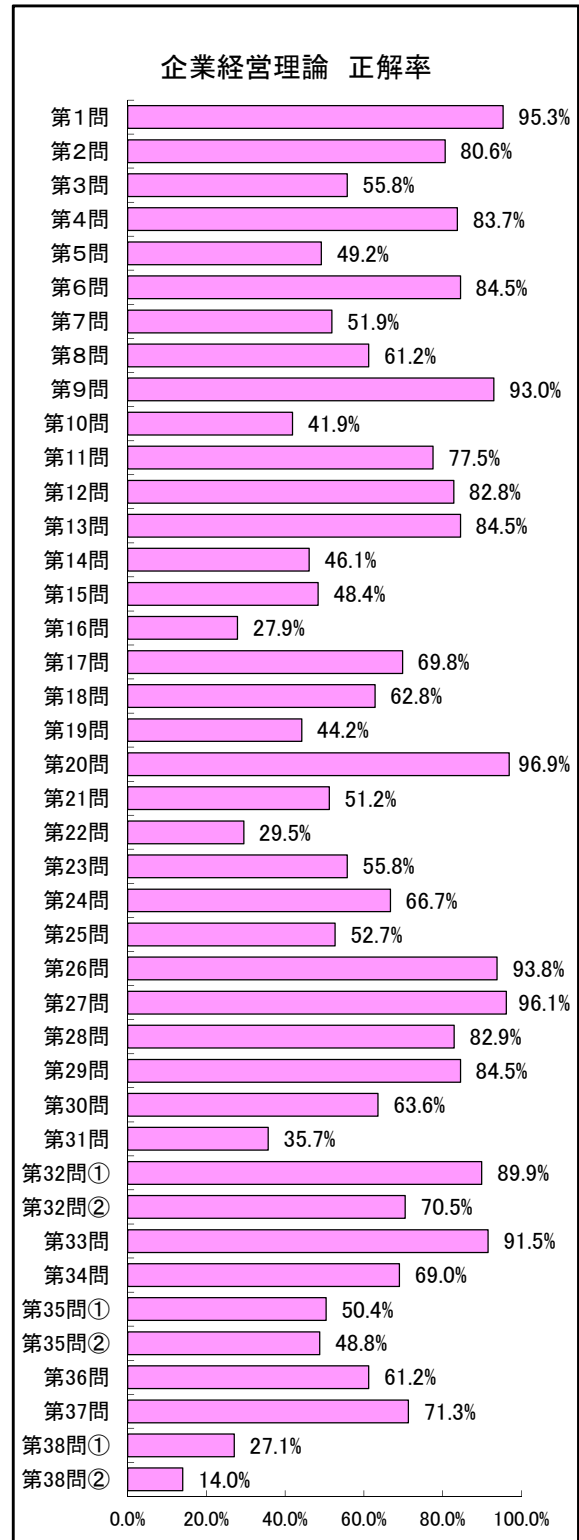
C 企業経営理論

平均点：65.0点、標準偏差：10.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

本科目は、量の面から見ると設問数は41設問と昨年と同数である。昨年度よりも解答しやすい問題も多く、全体としては昨年度よりも難度はやや低くなったと思われる。

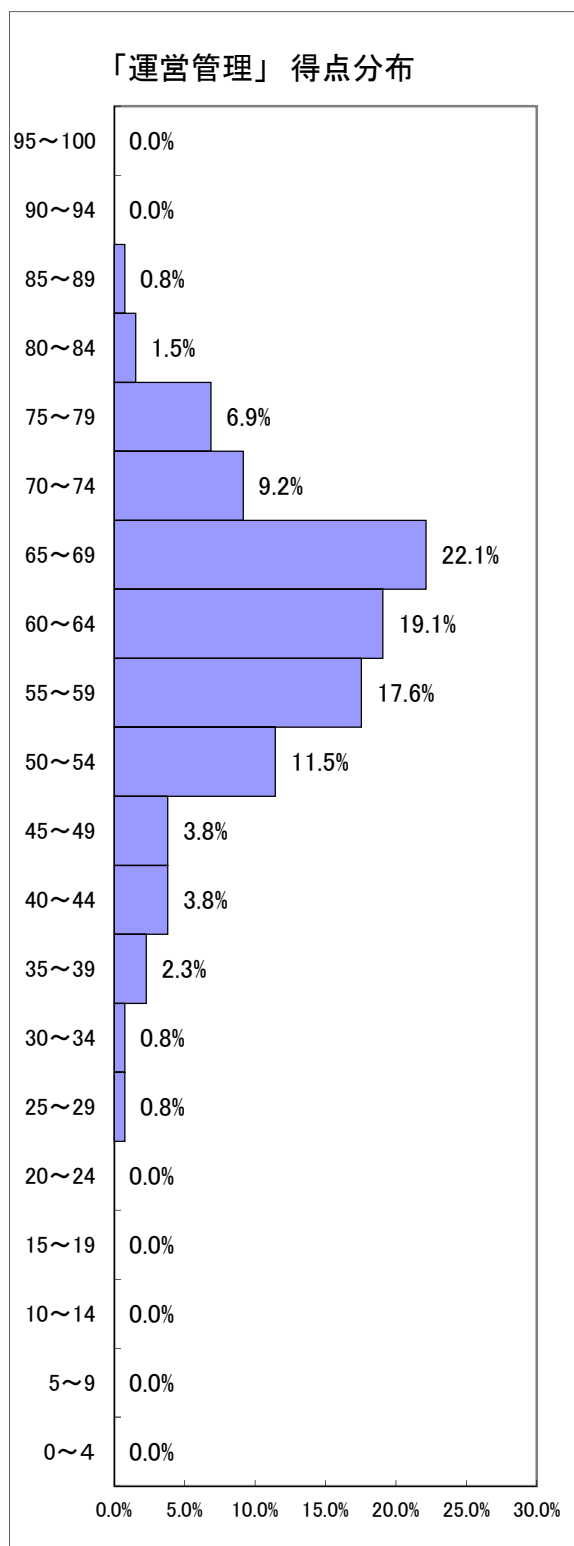
出題形式において、4肢択一形式と5肢択一形式の問題を比較すると、本年の出題は4肢択一形式と5肢択一形式の設問の比率が18対23になっており、昨年の19対22よりも5肢択一形式の出題数がやや増加している。

出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問、組織論が14設問、マーケティング論が14設問であった。近年の出題傾向と比較すると、昨年を除き出題の分野別内訳は変化していない。

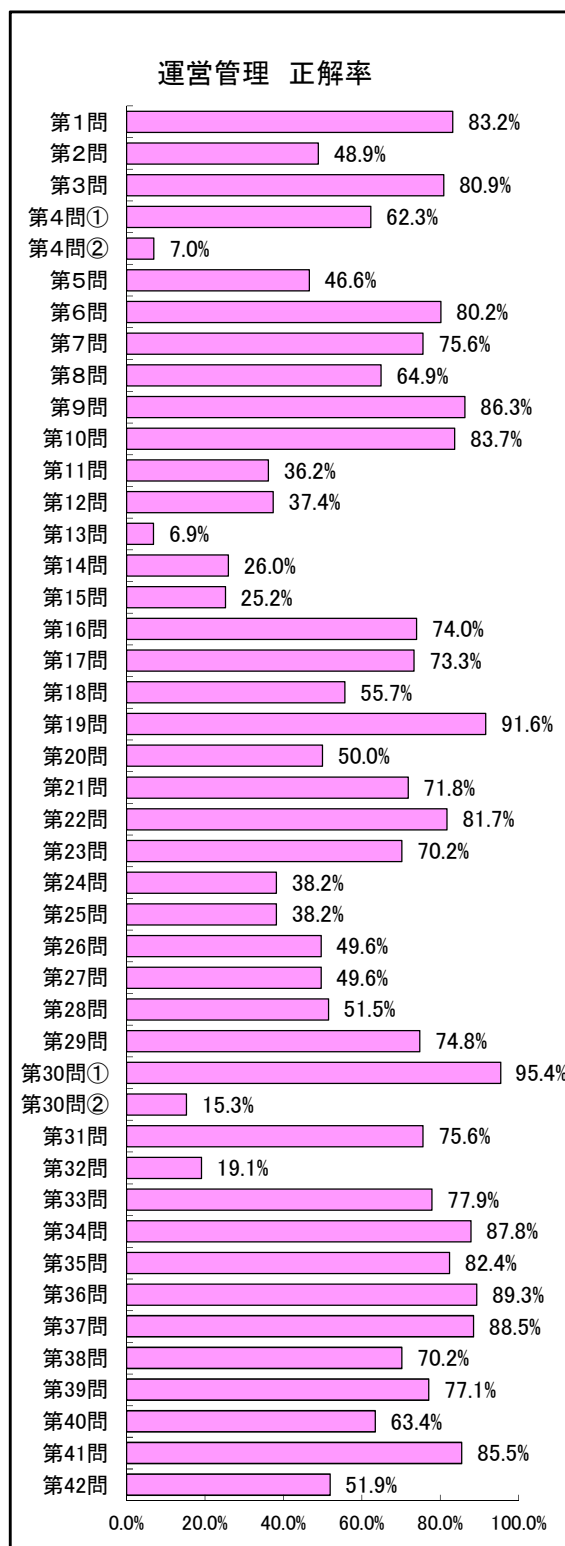
D 運営管理

平均点：61.0点、標準偏差：10.8

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

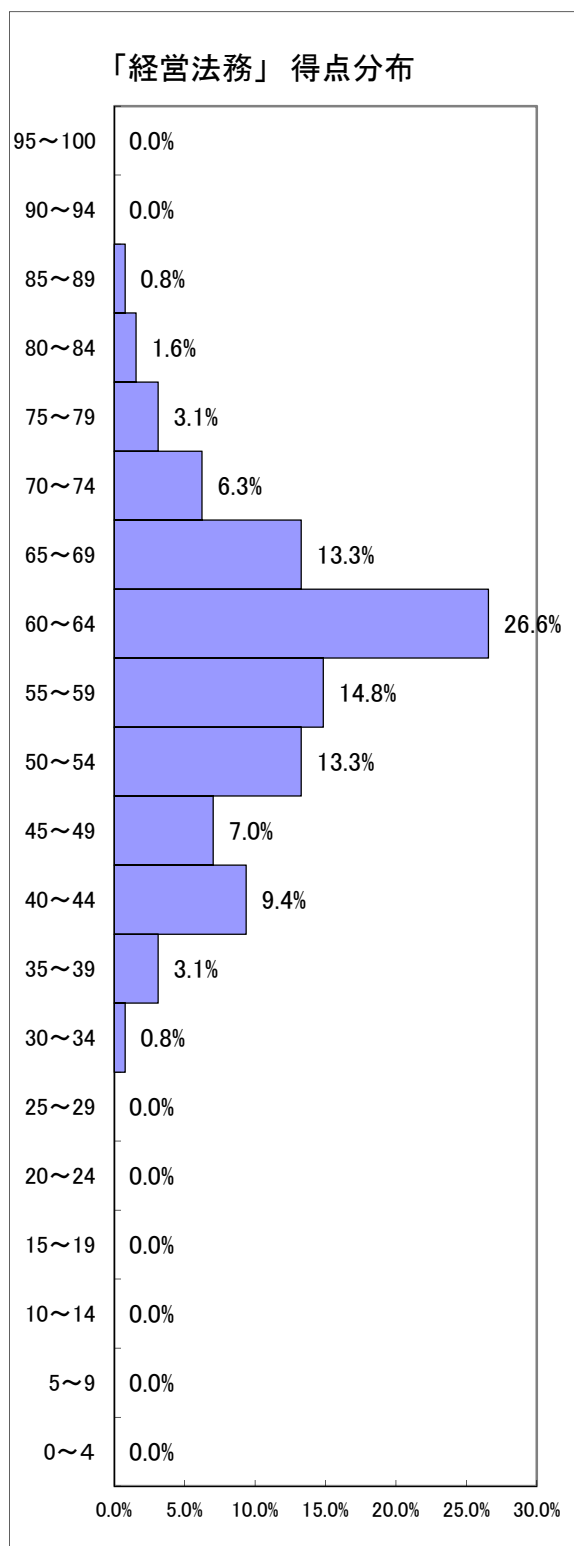
令和3年度の本試験は、運営管理44問（昨年44問）のうち、22問が生産管理（昨年22問）、22問が店舗・販売管理（昨年22問）であり、例年どおり偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理10問（昨年9問）、店舗・販売管理18問（昨年19問）と昨年と同じであった。さらに、計算関連の問題が7問（生産管理5問、店舗・販売管理2問）出題されており、その他にも、その場で内容を把握し解答を導かなければならない問題も比較的多かったため、解答を見直す時間が不足した方も多かったと思われる。

生産管理、店舗・販売管理いずれも対応が難しい問題が多かったため、全体としては昨年よりもやや難度が高くなったと思われる。したがって、基本事項に関する問題を確実に正解できたかで得点が左右されると思われる。

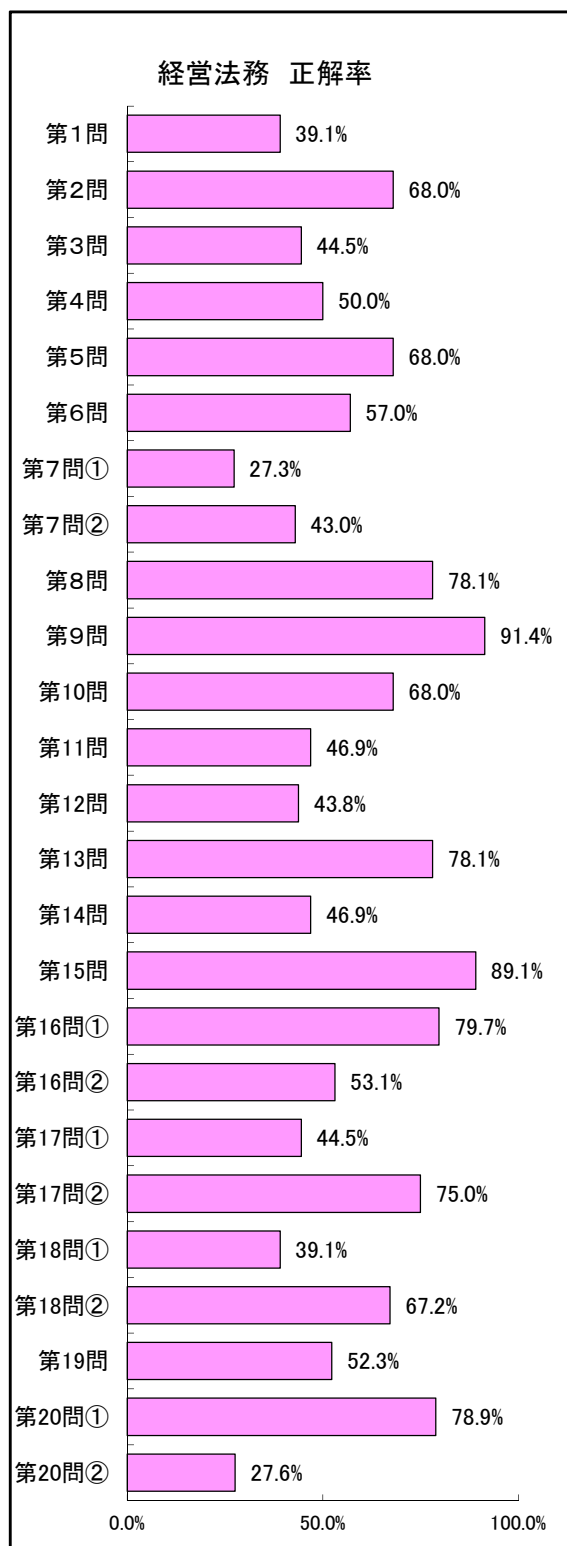
E 経営法務

平均点：58.3点、標準偏差：10.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和3年度の本試験は、問題数は20題（昨年22題）、設問数は25問（昨年25問）であり、昨年度とほぼ同じ問題構成であった。ボリュームは例年並みといえる。

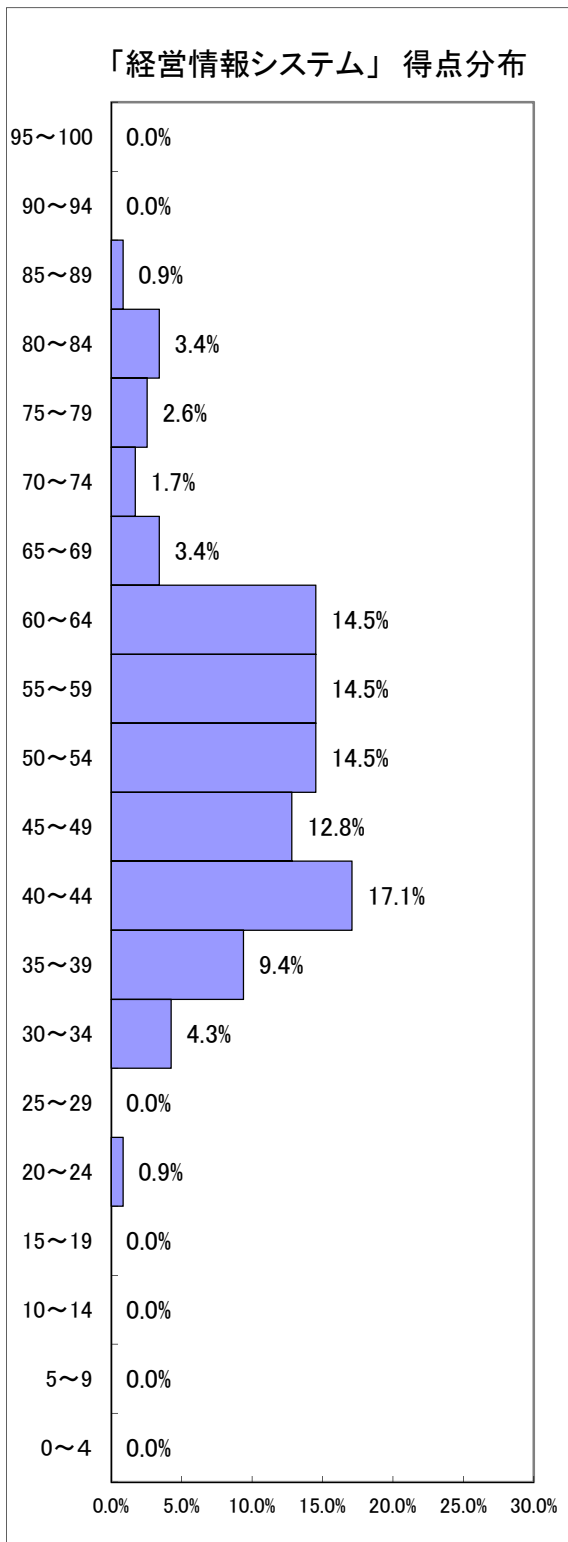
出題内容は、倒産法制を含む会社法関連が5問（昨年6問）、知的財産権関連が10問（昨年8問）、民法が7問（昨年9問）・その他が3問（昨年2問）であった。

全体的な難易度は、比較的得点を確保しやすい知的財産権関連の出題が多かったことを考慮すると、昨年度よりは取り組みやすくなっているが、近年のこの科目が複数年度で得点調整が行われていることを踏まえると、例年並みの高い難易度であったと思われる。したがって、合格基準点である60点を上回る得点を獲得することは容易ではなかったと思われる。

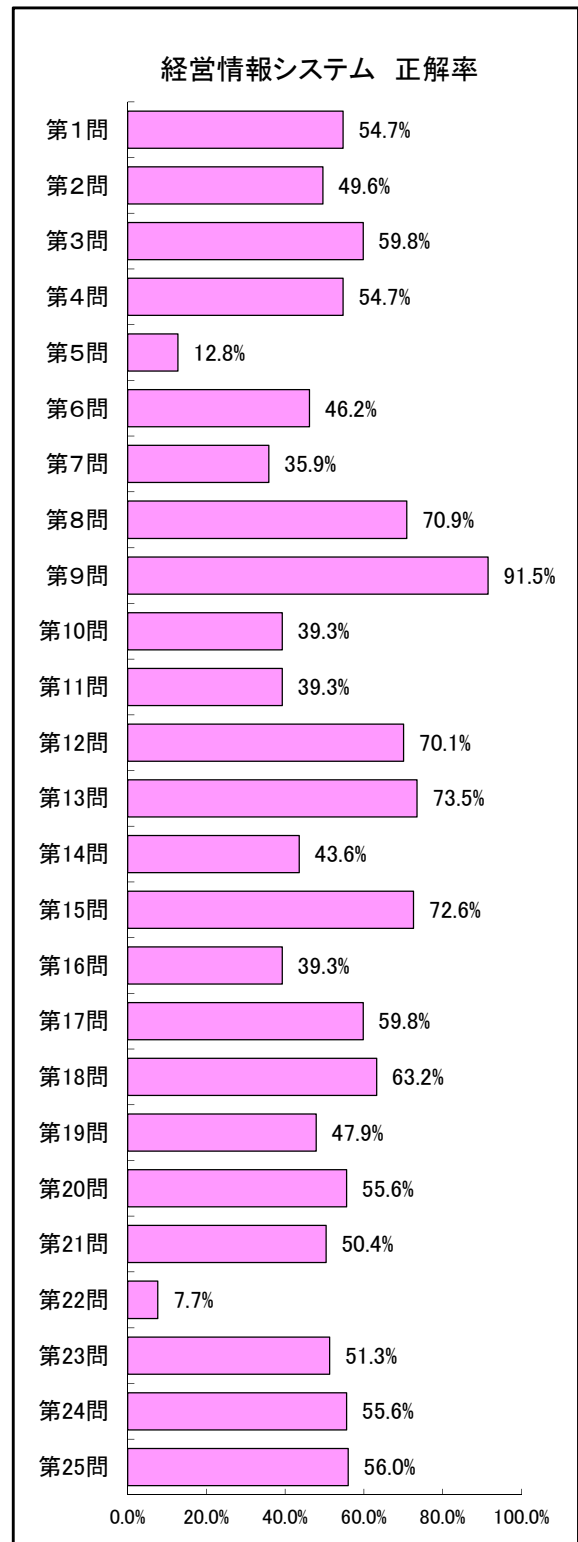
F 経営情報システム

平均点：52.0点、標準偏差：12.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和3年度の本試験は、この科目単独で60点以上の確保はかなり困難であり、突破するには知識とテクニックを総動員する必要があり、厳しい内容であった。特徴を列挙すると、①時事問題・最新の内容が多い。②従来と同じ用語を問うにしても、実務的・技術的に詳細な内容が多い。③経済産業省や総務省、IPA（情報処理推進機構）から発行されている各種ガイドラインや指針からの出題が多くみられる。正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

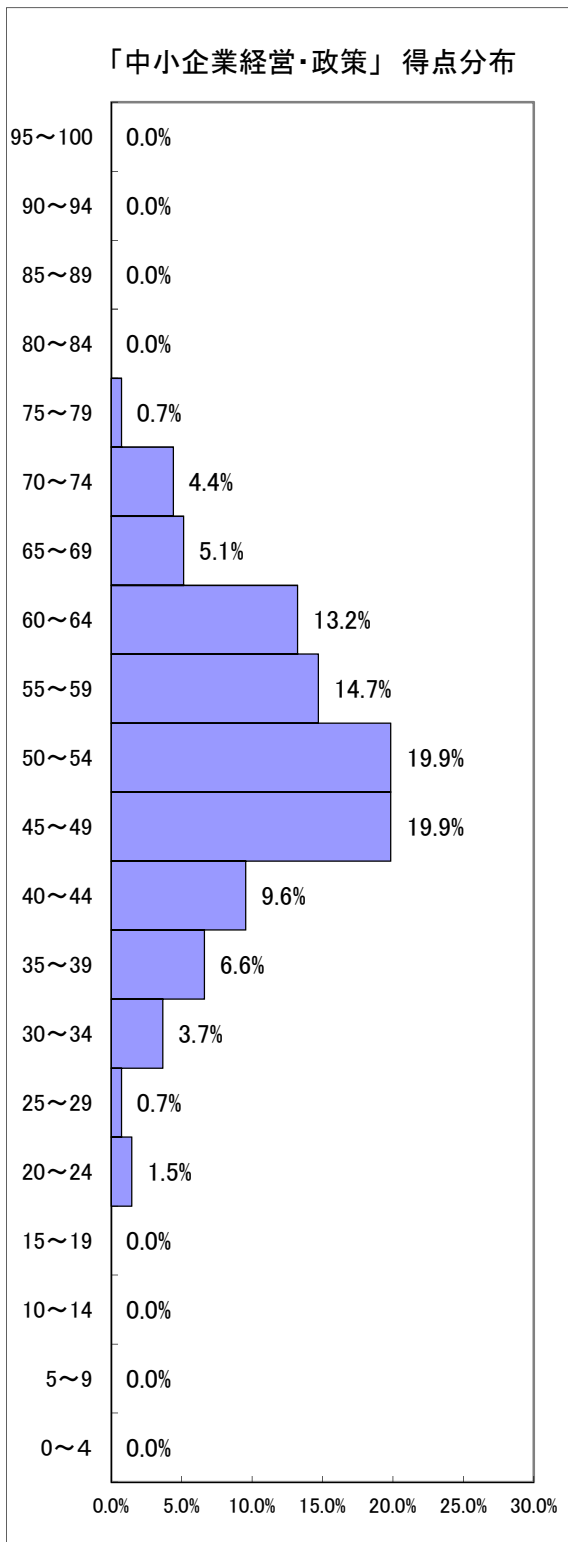
出題形式では、近年の設問数と同じで25問であるが、初めてすべての問題が5肢択一の問題であった。

出題の分野別内訳を見ると、おおむね前半（第1問～第12問）が情報通信技術に関する基礎的知識、後半（第13問～第25問）が経営情報管理の出題であり、基本事項に関する問題を確実に正解できたかで得点が左右されると思われる。

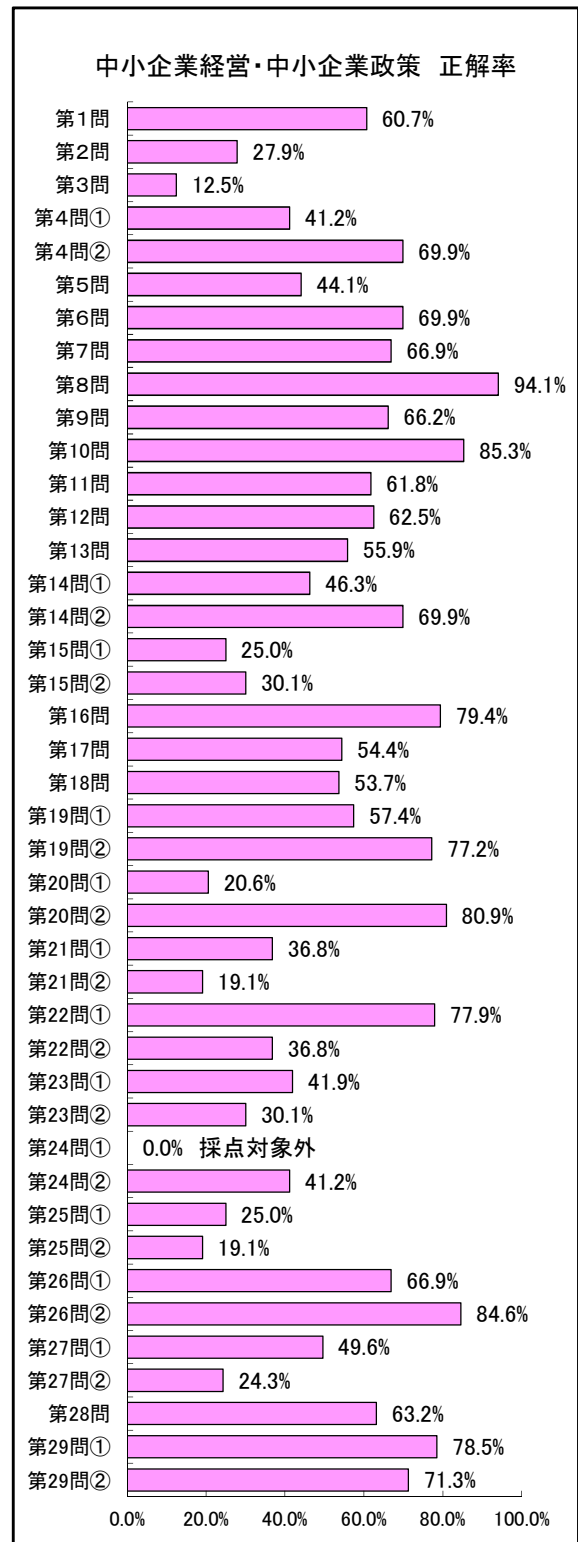
G 中小企業経営・中小企業政策

平均点：51.5点、標準偏差：10.6

■得点分布



■設問別正解率



《コメント》

令和3年度の本試験は、例年どおり42問の設問数であった。出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、こちらも例年どおりであった。

難易度は、中小企業経営、中小企業政策ともやや難しかったため、全体的には昨年度よりも難易度は高くなったものと考えられる。

中小企業経営の21設問のうち、『2020年版中小企業白書』からの出題が20設問、『2020年版小規模企業白書』からの出題が1設問であった。中小企業経営は、白書の特徴をしっかりと押さえられたかどうかで得点に大きく左右する。

中小企業政策の21設問のうち、概ね例年どおりの頻出論点を取り上げられている。ただし、出題頻度の高い経営革新やものづくり補助金などの出題がなかった。合格基準点である60点を上回る得点を獲得するには、中小企業政策で、これまでに出题されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。